



能性を秘めている点だろう。今のところ国内の臨床家は、大学での教育を受けた後に臨床心理士の資格を取り、スクールカウンセラーなどとして活動するのが一般的。しかし、大学を離れた後は組織的な訓練の機会がほとんどなく、同時に個人開業の相談室などもなかなか成り立っていないのが実情。岩本社長は「力のある人を送り出せば、状況は変わるはず」と語る。

手帳

カウンセリングなどで心をいやす心理療法家の仕事を、確固とした職業として確立させたい——そんな狙いを込めた臨床家育成プログラムが、五月から民間企業の手で始動することになった。

臨床心理士の訓練 プログラム始動へ

このほど説明会を兼ねて都内で行われた講演会には、心理療法の教育機関として名高いカリフォルニア総合学大学院教授で、プログラムの講師を務めるジョン・ハンロン・ジョンソン氏も参加。プログラムの意義を訴えた。

事業に取り組むのは、心理療法に関心をもつ起業家などが昨年設立した日本心理療法研究所(岩本令子社長)。対象は基本的に臨床心理士で期間は計五年。二年間は先進地の米

国から招いた講師らによる一週間の集中講座を計九回行い、残る三年間は有給でカウンセリングを行う訓練期間となる。修了後は資金貸与などを含めて開業を支援する予定で、国内の複数の大学教員なども助言役として参画する。

このプランのユニークさは、日本の心理療法を取り巻く状況に風穴を開ける可

能性を秘めている点だろう。今のところ国内の臨床家は、大学での教育を受けた後に臨床心理士の資格を取り、スクールカウンセラーなどとして活動するのが一般的。しかし、大学を離れた後は組織的な訓練の機会がほとんどなく、同時に個人開業の相談室などもなかなか成り立っていないのが実情。岩本社長は「力のある人を送り出せば、状況は変わるはず」と語る。

しかし、問題となりそうなのは入学金百万円、受講料計百八十万円(二年間)というコスト。説明会に参加した臨床心理士からは「無形のものにお金を払いたがらないのが日本人。開業まで面倒を見てもらっても引き合つか」といった懸念の声も聞かれた。

いずれにせよ、アカデミズム中心に展開してきた心理療法の世界に、ビジネス感覚を取り入れた発想がどんな成果を生んでいくか。プログラムの今後に注目したい。